

第92回原子力規格委員会 議事録

1. 日 時 2024年12月25日(水) 13時30分～17時15分

2. 場 所 一般社団法人 日本電気協会 4階 A, B会議室 (Web会議併用)

3. 出席者 (敬称略, 順不同)

出席委員：阿部委員長(東京大学), 吉田副委員長(日本原子力発電), 斉藤幹事(東京大学), 大坂(日立GEニュークリア・エナジー), 室伏(東芝エネルギーシステムズ), 佐藤(MHI NSエンジニアリング), 神坐(富士電機), 大平(日本原子力発電), 岡本(関西電力), 尾崎(中部電力), 波木井(東京電力HD), 藪内(鹿島建設), 小山(日本製鋼所M&E), 伊藤(日本原子力研究開発機構), 三浦(電力中央研究所), 村上(東京大学), 爾見(発電設備技術検査協会), 吉岡(日本電気協会), 高田(東京大学, 安全設計分科会長), 望月(大阪大学, 構造分科会長), 山本(名古屋大学, 構造分科会長), 中條(中央大学, 品質保証分科会長), 上叢(日本アイトーブ協会, 放射線管理分科会長), 出町(東京大学, 運転・保守分科会長), 田中(日本原子力保険プール)*1

*1：議題(2)より委員として出席。(計 25名)

代理出席：なし (計 0名)

欠席委員：藤田(東京電機大学, 耐震設計分会長) (計 1名)

常時参加者：佐々木(原子力規制庁), 南(原子力規制庁)*2, 鈴木(原子力安全推進協会), 岡田(電気事業連合会)

*2：議題(1)より常時参加者として出席。(計 4名)

説明者：安全設計分科会 安全設計指針検討会 板東主査(東京電力HD)

構造分科会 破壊靱性検討会 廣田主査(三菱重工業), 山本委員(電力中央研究所)

運転・保守分科会 保守管理検討会 牧原主査(東京電力HD), 明石副主査(四国電力),

平原副主査(九州電力)

運転・保守分科会 運転保守指針検討会 松澤主査(東京電力HD), 米澤副主査(日本原子力発電)

(計 8名)

傍聴者：なし (計 0名)

事務局：奥村, 高柳, 中山, 川口, 景浦, 原, 美濃, 浅見, 上野, 梅津, 田邊(日本電気協会) (計11名)

4. 配付資料：別紙参照。

5. 議 事

事務局から、本委員会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認の後、議事が進められた。

(1) 会議開催定足数確認他

事務局より、出席者は現時点で委員総数25名に対して24名の出席であり、定足数確認時点で原子力規格委員会規約第11条(会議)第1項に基づく出席委員は委員総数の3分の2以上の出席という会議開催定足数の条件を満たしているとの報告があり、その後、常時参加者3名の紹介及び下記常時参加希望者の紹介があり、常時参加希望者については、規約第9条(常時参加者)に基づき常時参加者として承認するかについて、特にコメントはなく、出席委員全員の賛成で承認された。

・常時参加希望者 南 氏（原子力規制庁）

続いてWeb会議に対する注意事項の後、第93回原子力規格員会は、2025年03月26日（水）午後を予定しており、各委員の予定確保をお願いするとの説明があった。その後配布資料の確認を実施した。

(2) 原子力規格委員会委員、分科会委員の承認

1) 原子力規格委員会委員の変更

事務局より、資料 No.92-1-1 に基づき、下記退任予定委員の紹介があった。

・退任予定 佐藤 委員（MHI NS エンジニアリング）

引き続き、阿部委員長より、規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第2項に基づき、新委員の推薦について確認の結果、日本電気協会 吉岡委員より、日本原子力保険プールの田中氏を推薦するとの発言があり、委員として承認するかについて、規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成で承認された。

2) 分科会委員の変更及び承認（審議）

事務局より、資料 No.92-1-2 に基づき、下記分科会委員の変更の紹介があり、分科会規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第1項に基づき、新委員候補を分科会委員として承認するかについて、原子力規格委員会規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成で承認された。

【安全設計分科会】

・退任 滝井 委員（日立 GE ニュークリア・エンジニア）

・新委員候補 安田 氏（同左）

【原子燃料分科会】

・退任 滝井 委員（日立 GE ニュークリア・エンジニア）

・新委員候補 安田 氏（同左）

・退任 川西 委員（日本原子力研究開発機構）

・新委員候補 三輪 氏（同左）

【品質保証分科会】

・退任 伊藤 委員（北海道電力）

・新委員候補 河本 氏（同左）

(3) 原子力規格委員会委員長の選任

阿部委員長が一時退席の後、吉田副委員長により議事が進められた。

事務局より、原子力規格委員会委員長の選任について説明があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・現在の阿部委員長は2023年3月28日に委員長に選任されており、規約第4条（委員長）第4項によると、任期は2年で、4回を超えない範囲で再任できることになっている。
- ・2025年3月で任期終了となることから、規約第4条（委員長）第3項に基づき、委員長は互選により委員の中から選任することになっているので、各委員より推薦を募ることとする。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・選任方法について、特に異論はなかった。
- ・尾崎委員より、現在の阿部委員長を継続して委員長に推薦するとの発言があった。
- ・他に推薦がなかったため、規約第4条（委員長）第4項に基づき、阿部委員を委員長候補として、1月中に郵送による単記無記名投票を実施することとなった。また、副委員長、幹事については、新委員長選

任後の2025年3月の原子力規格委員会で規約第5条（副委員長及び幹事）第2項及び第3項に基づき指名することとなった。

(4) 規格案の審議

1) JEAC4622「原子力発電所中央制御室等の事故時居住性に係る被ばく評価に関する規程」改定案

安全設計分科会 安全設計指針検討会 板東主査より、資料 No.92-3-1 シリーズに基づき、JEAC4622「原子力発電所中央制御室等の事故時居住性に係る被ばく評価に関する規程」改定案について説明があった。

審議の結果、JEAC4622 改定案について、今回の原子力規格委員会の意見を反映した資料を三役に確認頂き、その後、年末年始を挟む場合は 30 日間、年明け開始の場合は通常の 3 週間の期間で書面投票を実施することになった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 最新知見の反映状況であるが、資料 No.92-3-1-1 では、具体的な審査の対象のプラント名が全て書いてあるが、資料 No.92-3-1-参考には書かれていないため、参考としたプラント名は全て書いた方が良くかと思う。そのような目を見た時に、最新知見の反映状況がどこまで書かれているのか分からない所があるため、説明をお願いしたい。
 - プラント名を記載することについて了解した。簡単に最新知見について説明すると、福島第一原子力発電所事故の経験に基づく知見は取り込んでいる。安全審査の結果も使用しており、その中で見ている内規及び審査ガイドを考慮して作成している。規制動向としては、島根原子力発電所 2 号機及び泊原子力発電所 3 号機までは見ている。その後の審査においては、特に新しいことはなかったことを確認しており、最近の審査経験まで反映できていると考える。法令の動向に関しても本規格に関する新たな情報は無いと考えている。諸外国の規制動向については、IAEA の要求も確認しており、十分に国内規制の方が高い水準にあることを確認しており、国内要求を基に作成することを判断している。
 - ・ 本規格は非常に重要なので、その価値が分かるようにして頂きたいと考える。特に IAEA の SAFETY STANDARDS においては、何がどう十分に高い水準だったのかが分からないため、見える化していただきたい。
 - ・ 資料 No.92-3-1-参考で原子力規制庁の審査ガイドについて、改正年月日を書いているが、後で探せなくなるので、制定日で記載しておいた方が良くか考える。
 - どこまでを取り込んでいるかを明確にしておくことが大切だと考えるので対応を宜しくをお願いしたい。
 - ・ 用語の定義に関するコメントに対して、「という」を削除して頂いたが、「のこと」が残っており、このまま置き換えできないので、「のこと」も削除して頂いた方が良くか考える。
 - そのように対応したいと考える。
 - ・ 今回の原子力規格委員会で出てきたコメントに関しては、適切に反映することを前提に、反映結果については三役にて確認した後、書面投票に移行することについて決議を実施したいと考える。
- 特に異論がなかったので、今回の原子力規格委員会の意見を反映した資料を三役に確認後、下記条件で書面投票に移行するかについて、規約第 14 条（決議）第 4 項に基づき、挙手にて決議の結果、出席委員全員の賛成で承認された。
- ・ 書面投票期間は、年末年始を挟む場合は 30 日間、年明け開始になる場合は通常の 3 週間で実施する。
 - ・ 原子力規格委員会で決議の結果、可決された場合には公衆審査（2 ヶ月間）に移行する。なお、公衆

審査開始までの編集上の修正については、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事に判断を一任する。

- ・ 公衆審査で意見が無く、以降発刊迄の編集上の修正については、出版準備（校閲）の範疇として、分科会の責任で修正を行う。
- ・ 編集上の修正範囲内での意見があった場合には、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事の判断により編集上の修正を承認し、修正内容について委員に通知をして、発刊準備に入る。
- ・ 編集上の修正を超える修正を要する意見があった場合には、別途審議（書面投票又は委員会審議）を行う。

2) JEAC4216「フェライト鋼の破壊靱性参照温度 T_0 決定のための試験方法」改定案

構造分科会 破壊靱性検討会 廣田主査、山本委員及び事務局より、資料 No.92-3-2 シリーズに基づき、JEAC4216「フェライト鋼の破壊靱性参照温度 T_0 決定のための試験方法」改定案について説明があった。

審議の結果、JEAC4216の改定案について12月26日(木)から1月24日(金)までの30日の期間書面投票に移行することで、承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 規格のMCT-1300記号及び用語の定義の(49)になるが、「1T試験片に対する」と記載されているので、マスターカーブ法はフルサイズ(1T)試験片しか適用しない方法と思って良いのか。
→ 1T試験片に限定されるものではない。マスターカーブ法では、試験片の寸法依存性を補正することが可能で、1T試験片相当に補正した値で温度依存性の式(マスターカーブ)の定式化がなされている。小さな試験片でも、大きな試験片でも1T試験片相当に変換することが出来る。様々な寸法の試験を用いて評価することが可能である。
- ・ MCT-1300記号及び用語の定義の(49)の表現については、誤解される可能性があるので、「試験片のサイズによらない」ということが分かるように修文した方が良いかと考える。
- ・ 資料No.92-3-2-6国内外の最新知見とその反映で(2)国内外の研究・開発の成果(学術論文、報告書等)とある部分、これらは国際的なプロジェクトによるものであるが、そういうものを抽出した知見がここに記載されていると考えて良いか。
→ そのとおりである。厳密にいうと、今言われた国際プロジェクトは試験規格(JEAC4216)に関するものではなく、監視試験片や健全性評価のためにマスターカーブ法を適用できるかという観点のものである。電気協会に関連する規格はJEAC4201やJEAC4206であり、それらの改定の際には同国際プロジェクト等から抽出された知見に関する記載が入る可能性がある。
- ・ No.92-3-2-6の(2)国内外の研究・開発の成果(学術論文、報告書等)にJEAC4216とJEAC4206への知見反映の仕分けについて記載があると分かりやすいと思う。次回から検討してもらいたい。
- ・ マスターカーブ法は、資料No.92-3-2-6のどこに該当するものなのか。
→ (3)国内外の規格・基準の動向に記載されている規格が関連するものになる。マスターカーブ法はASTM E1921になる。
- ・ 資料No.92-3-2-3の(解説MCT-1100)適用範囲にASTM E1921は頻繁に改定されているとの記載があるが、この改定をどのように取り扱っているのか。
→ JEAC4216は、国内で統一した規格としてASTM E1921よりも解説を充実させて国内関連規格との整合性を確認した上で制定したものである。ASTM E1921は規格化以降も頻繁なアップデートを特に妨

げないので、実際にはコンセンサスが得られている知見もあれば、議論が生煮えのものもある。後者は日本の文化には適さないもので、知見の一つ一つについて取り込み可否を判定している。

- ・ 取捨選択のプロセスは資料として取り纏められているのか。
- 第 90 回原子力規格委員会の資料に知見の区分・考え方を整理しており、取捨選択の結果を把握することができる。
- ・ 日本の規格が国外の規格と比較して優れている点は、解説が非常に充実していることだと思う。例えば知見を取り込んだ理由、技術的根拠の論文、電共研結果のサマリーなどを解説に記載していることは大事なことだと思っており、技術評価をする際に助かっているところがある。できる限り検討した内容を解説に追記して充実させてもらいたい。
- 前回の技術評価のコメントを反映し、今回は解説をかなり充実させており、解説の部分が大幅に増加している。
- ・ JEAC4216 の改定案について書面投票に移行するかについて決議を取りたいと考える。

○ 特に異論がなかったため、JEAC4216 の改定案について下記条件で書面投票に移行するかについて、規約第 14 条（決議）第 4 項に基づき、挙手にて決議の結果、出席委員全員の賛成で承認された。

- ・ 書面投票期間は年末年始を含むので、12 月 26 日(木)から 1 月 24 日(金)までの 30 日間で実施する。
- ・ 原子力規格委員会で決議の結果、可決された場合には公衆審査（2 ヶ月間）に移行する。なお、公衆審査開始までの編集上の修正については、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事に判断を一任する。
- ・ 公衆審査で意見が無く、以降発刊迄の編集上の修正については、出版準備（校閲）の範疇として、分科会の責任で修正を行う。
- ・ 編集上の修正範囲内での意見があった場合には、原子力規格委員会の委員長、副委員長及び幹事の判断により編集上の修正を承認し、修正内容について委員に通知をして、発刊準備に入る。
- ・ 編集上の修正を超える修正を要する意見があった場合には、別途審議（書面投票又は委員会審議）を行う。

(5) 規格の策定状況（中間報告）

1) JEAC4209/JEAG4210「原子力発電所の保守管理規程/指針」改定案

運転・保守分科会 保守管理検討会 牧原主査より、資料 No.92-4-1 シリーズに基づき、JEAC4209/JEAG4210「原子力発電所の保守管理規程/指針」改定案について中間報告があった。

JEAC4209/JEAG4210 の中間報告に対して、12 月 26 日(木)から 1 月 25 日(土)の約 1 ヶ月間意見伺いを実施することになった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ JEAC4209/JEAG4210 の原子力規格委員会への中間報告については、今回と次回の 2 回実施しようと考えている。
- ・ JEAC4209 の最初の制定時期はかなり昔になると思うが、当初は米国のメンテナンスルールや規格を随分意識していたと思う。今回の改定の内容自体は、規制の変更等色々なものを取り込むというふうに理解したが、そうすると、制定当初の趣旨もあるし、今回改定の趣旨もあるということで、全体のイメ

ージを一度確認した方が良いと思う。色々な要素をこの規格に取り込んでしまうが、その分け方が電力事業者にとって適切かということもあり、一度確認頂きたいと考える。

- この規格がユーザにとって使いやすいかということを確認するという事で理解した。
- ・ 今日中間報告として報告して頂いた資料の中には、最新知見をどれだけ反映しているのかということが必ずしも明示されていない。検討自体はした上で中間報告を実施していると思うので、見える化をしてほしいと考える。
- ・ ATENA ガイドを参照することが出来るという所がいくつか出てきている。以前から ATENA ガイドと学協会規格のすみ分けというのは時々話題になっていると思うが、最近は整理されてきたということなのか。
- ATENA ガイドと日本電気協会の規格の責任分解点についての質問か。
- ・ そこまできっちりしたものではないが、ATENA ガイドと学協会規格がどのような関係にあるのかが分からず、規格に ATENA ガイドを参照すると書いてあると、ATENA ガイドは規格を使う時の参考文献のような緩やかな紐づけがされているように見えている。1 種類ではなく何種類も引用されているので、規定内容は日本電気協会規格などに規定されていて、実際の運用は ATENA ガイドに記載されているといった緩やかな仕分けがなされているということなのか。
- 本規格に関する議論としては、規格は要求事項を記載し、細かい運用は規格には記載せずにガイドライン等を緩やかに紐づけすることになっている。なお、ATENA ガイドを原子力規格委員会で承認するようなことは考えていない。
- ・ 今後規格の改定作業を進めるなかで ATENA とも良く話し合ってもらくと良いと考える。
- 設計検証や設計確認がサプライチェーンに関連して最近よく話題になっており、実際に設計検証に関するトラブルが発生している。そういう意味で設計検証については重要と考えるが、ATENA ガイドに記載されているので、この規格には記載しないということなのか。再稼働が進んでいる原子力発電プラントでは、サプライチェーンの関係で入手できなくなった部品に対して、代替品を持ってきたりすることが有り、実際にそれに起因するトラブルが起きたりしている。その状況でも ATENA ガイドに任せておいて大丈夫なのか。本規格は保守管理を中心としたものである。設計開発等は JEAC4111 などの別の規格に記載されており、製造中止品管理（代替品）の細かい運用については ATENA ガイドに書かれているので、本規格では保守管理の一連のプロセスの中で取り込むべき情報等を中心に記載しているという趣旨になる。ATENA ガイドに任せておいて大丈夫なのかとのご質問については、今後、明確な回答を準備する。
- ・ 規格の長期施設管理計画の通常点検、劣化点検、特別点検の説明については、現状は NRA 内規そのものと思う。実際に長期施設管理計画申請の際、電力と規制庁の用語の解釈が異なっていたことがあり、認識合わせを実施した。今後の他社の審査の実績も踏まえて、用語の定義を解説に追記した方が、民間規格として事業者と NRA 双方にメリットがある。
- 実績を収集し対応を検討する。
- ・ 今回改定部分ではないが、JEAC4111 と JEAC4209 で若干齟齬がある部分があるので、可能であれば今回の改定に合わせてすり合わせを実施したほうがよい。
- ・ 今回は中間報告ということで、事務局よりコメント依頼を各委員に送付する。コメント期間は 12 月 26 日(木)から 1 月 25 日(土)の約 1 ヶ月間とする。

2) JEAG4803-1999「軽水型原子力発電所の運転保守指針」廃止に係る状況報告

運転・保守分科会 運転保守指針検討会 松澤主査より、資料 No.92-4-2 に基づき、JEAG4803-1999「軽水型原子力発電所の運転保守指針」廃止に係る状況について報告があった。

JEAG4803-1999 廃止に関する中間報告に対して、12月26日(木)から1月25日(土)の約1ヶ月間意見伺いを実施することになった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ ニーズがないという部分について補足していただきたい。例えば、基になっている ASME OM で定めている試験については、現状各社とも準備ができていますのでニーズがない、というような説明を頂ければ安心する。
具体的に規格の内容が事業者の実際の検査の中身にどう落ちているかということを含め、各ユーザー（事業者）に確認した。結果、現在の各設備の検査の内容が標準化されており、改めて規格に頼ってやり方の検討するような課題やニーズがないことを確認している。具体例を確認して示したい。
- ・ この指針が有ったら困るということで廃止するわけではないと思う。過去に日本電気協会で指針を策定し、それを各電力事業者が確認して社内規定に取り込んだりして行き渡ったので、それはそれで良かったのだと思う。今後、指針を技術資料にし、それを分科会で管理していくような運用にしたほうがユーザーの経験の反映等が容易で使いやすくなる等、何故廃止して技術資料にするのかということの説明頂くと有難い。
 - 将来の有効な保全のため活用するべく制定した資料なので、現状からさらに良くするために今後技術資料としてどう活用していくかも整理する必要があると認識した。
- ・ 1999年にこの指針を制定したのは意味があったが、それが各電力事業者に行き渡り、この指針を使用する意味がなくなってしまいニーズがなくなったということか。
 - この指針は各電力事業者での作動試験を標準化するという意味合いもあったかと思う。そもそも長期サイクル運転を目指していた時代での検討だったが、福島第一原子力発電所事故を経て長期サイクル運転に対する展望が見えなくなった状況にある。
- ・ 本指針は長期サイクル運転が目的であったのか。
 - 時間基準保全から状態監視保全に移行し、設備の健全性を確認するための試験のやり方を整理したというのがこの指針の目的である。
- ・ 保全技術が発展してきたので、それに伴って今後のメンテナンスの在り方を規定するものとしてこの指針を策定したのかと思ったがそうではないということなのか。
 - 繰り返しになるが、時間基準保全から、米国で実施されているオンラインメンテナンスを日本でも目指すために、状態監視保全に移行するための検査のやり方を定めたものであり、保全技術の更なる高度化が目的となっている。
- ・ 今回は中間報告ということで、事務局よりコメント依頼を各委員に送付する。コメント期間は、12月26日(木)から1月25日(土)の約1ヶ月間とする。

(6) その他（その1）

1) JEAC4111 技術資料について（報告）

事務局より、JEAC4111 技術資料について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

(7) 基本方針策定タスク案件の審議・報告

1) 活動の基本方針の改定（報告）

事務局より、資料 No.92-6-1 に基づき、活動の基本方針の改定について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 本件に関しては、3月の原子力規格委員会で決議したいと考える。

2) 第9回原子力規格委員会シンポジウムの結果について（報告）

事務局より、資料 No.92-6-2 シリーズに基づき、第9回原子力規格委員会シンポジウムの結果について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

3) JEAC4201 追補版/JEAC4206 追補版技術評価について（報告）

事務局より、資料 No.92-6-3 に基づき、JEAC4201 追補版/JEAC4206 追補版技術評価について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

(8) 原子力関連学協会規格類協議会案件の報告

1) 規格策定段階における原子力規制庁と学協会の積極的な議論推進に向けた取り組みについて（報告）

事務局より、資料 No.92-7-1 に基づき、規格策定段階における原子力規制庁と学協会の積極的な議論推進に向けた取り組みについて報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 資料 No.92-7-2 には技術評価を希望する学協会規格で議論する点等が記載されているが、これは我々が技術評価をする時に会合で質問したり、技術評価書に記載したりしていることである。それは我々が分かっている訳なので、学協会側が規格を策定する時にそういう観点から資料を作って頂き準備して頂いた内容を学協会の規格策定会議において説明してもらいたい。我々が聞いて、さらにもう少し説明が必要だとか、考慮し忘れが有るのではないかということが発言出来ると思う。ここに書いてあることを規格策定の時に意識して、聞かれた時に答えられるようにして頂くと有難いと思う。

2) 技術評価を希望する学協会規格（報告）

事務局より、資料 No.92-7-2 に基づき、技術評価を希望する学協会規格について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

(9) その他（その2）

1) 2024 年度原子力規格委員会功労賞の申請・選考スケジュールについて

事務局より、資料 No.92-8-1 に基づき、2024 年度原子力規格委員会功労賞の申請・選考スケジュールについて説明があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

2) ISO 規格の検討状況について(報告)

事務局より、資料 No.92-8-2 に基づき、ISO 規格の検討状況について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

3) 前回議事録確認

阿部委員長より、資料 No.92-8-3 に基づき、前回議事録の紹介があり、正式議事録とすることについて特にコメントはなく承認された。

4) 原子力規格委員会退任委員の挨拶

今回原子力規格委員会委員を退任する、MHI NS エンジニアリング 佐藤委員より退任の挨拶があった。

以 上

第92 子力規格委員会配付資料

資料 No.92-1-1	原子力規格委員会 委員名簿 (2024 年 12 月 25 日現在)
資料 No.92-1-2	原子力規格委員会 分科会 委員名簿 (案) (2024 年 12 月 25 日現在)
資料 No.92-2	Web 会議併用における原子力規格委員会委員長の選任について (案)
資料 No.92-3-1-1	JEAC4622 「原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程」改定に向けた検討 最終報告資料
資料 No.92-3-1-2	原子力発電所中央制御室等の事故時居住性に係る被ばく評価に関する規程 JEAC 4622-20XX 改定案
資料 No.92-3-1-3	JEAC 4622 「原子力発電所中央制御室等の事故時居住性に係る被ばく評価に関する規程」の新旧比較表
資料 No.92-3-1-4	JEAC4622 改定案に対する原子力規格委員会中間報告意見対応表
資料 No.92-3-1-5	JEAC4622 改定案に対する安全設計分科会意見対応表
資料 No.92-3-1-参考	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況 (JEAC4622-20XX 原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規定)
資料 No.92-3-2-1	第 90 回 原子力規格委員会 JEAC4216-202X 書面投票時のご意見及び回答 (案)
資料 No.92-3-2-2	第 76 回 構造分科会 JEAC4216-202X 書面投票時のご意見及び回答 (案)
資料 No.92-3-2-2-1	JEAC4216-202X における記号類の書式について
資料 No.92-3-2-3	フェライト鋼の破壊靱性参照温度 T_0 決定のための試験方法 (案) JEAC 4216-202X (履歴付き)
資料 No.92-3-2-4	フェライト鋼の破壊靱性参照温度 T_0 決定のための試験方法 (案) JEAC 4216-202X (履歴なし)
資料 No.92-3-2-5	JEAC4216-202X 規格改訂提案 新旧比較表 (2024.12.22)
資料 No.92-3-2-6	JEAC4216-2024 規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況
資料 No.92-4-1-1	保守管理規程/指針(JEAC4209/JEAG4210)次回改定について (案)
資料 No.92-4-1-2	「JEAC4209-202X 原子力発電所の保守管理規程」 新旧比較表
資料 No.92-4-1-3	「JEAG4210-202X 原子力発電所の保守管理指針」 新旧比較表
資料 No.92-4-1-4	JEAC4209/JEAG4210 改定案 (中間報告) に関する運転・保守分科会から頂いた意見等
資料 No.92-4-1-5	JEAC4209/JEAG4210 改定に向けた国内外の知見リスト
資料 No.92-4-2	軽水型原子力発電所の運転保守指針 (JEAG4803-1999) の廃止に向けた対応について (中間報告)
資料 No.92-6-1	原子力規格委員会 活動の基本方針の改定要否確認について (案)
資料 No.92-6-2-1	第 9 回 日本電気協会 原子力規格委員会 シンポジウム結果
資料 No.92-6-2-2	第 9 回原子力規格委員会シンポジウム 参加者・アンケート集約結果
資料 No.92-6-2-3	次回シンポジウムに向けた検討 (案)
資料 No.92-6-3	JEAC4201 追補版/JEAC4206 追補版 NRA 技術評価実施状況について

資料 No.92-7-1	規格策定段階における NRA と学協会の積極的な議論推進に向けた取組みについて (案)
資料 No.92-7-2	技術評価を希望する学協会規格
資料 No.92-8-1	2024 年度 原子力規格委員会功労賞 申請・選考スケジュール
資料 No.92-8-2	ISO 規格の検討状況について (報告)
資料 No.92-8-3	第 91 回原子力規格委員会 議事録 (案)
参考資料-1	日本電気協会 原子力規格委員会 規約
参考資料-2	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
参考資料-3	日本電気協会 原子力規格委員会 規程・指針策定状況
参考資料-4	日本電気協会 原子力規格委員会 委員参加状況一覧